

令和6年第1回議会定例会（施政方針・当初予算）

令和6年度の予算案及び諸議案のご審議をお願いするにあたり、新年度の市政運営に臨む所信の一端を述べさせていただきます。

昨年5月の2期目就任当初から申し上げておりますとおり、私は何としても市の人口減少に歯止めをかけたいと考えております。

そのためには、多様性を尊重しつつ、市民一人ひとりに寄り添い、きめ細やかな住民サービスを拡充し、「将来にわたり白井で暮らしていこう」、また、「魅力ある白井に住んでみたい」、と感じていただけるよう、先ずは、2期目の公約に掲げた5つの基本方針を「オール白井」で着実に取り組み、もっと豊かなまちづくりを強力に進めてまいります。

先人が築いてこられた、農・商・工のバランスや、豊かな緑の都市空間など、白井の魅力さをさらに高め、白井ならではのまちづくりを構築するため、DXの活用をはじめ、時代に則した市民サービスを加速させるとともに、子ども子育て支援や、人生100年時代を見据えた健康づくり支援の、いっそうの充実を図ってまいります。

そして現在、このことを実現するため、安定的な歳入確保に向けた取組みに注力しているところです。この歳入確保の方策としましては、北総台地の強固な地盤上にある本市の特性を生かしデータセンターなどの情報通信産業をはじめ、国道16号や北千葉道路等においては、幹線道路沿線に適した物流産業など、本市の地の利を最大限に活用した企業誘致を強力に進めてまいります。また、市内各所の耕作放棄地に対し、農業生産法人などの誘致により農業の再生に向けた取組みを進め、都市近郊農業の活性化も促してまいります。さらに、ゼロカーボンシティを目指し、再生可能エネルギーを活用した事業者の誘致にも取組み、食とエネルギーの地産地消を目指していきたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した昨年来、訪日外国人観光者数が増加傾向にある中、成田国際空港と羽田空港を結ぶ鉄道線上にある本市は、インバウンド需要の受け皿として期待されるところです。都市部に近い立地を生かし、白井が持つ魅力や資源、文化などから得られる豊かな体験をとおり、国内外の人々に訪れていただく事業にも果敢に挑み、白井から地域経済の活性化を意欲的におこなって

まいります。

こうして得た財源を、子供から高齢者まで、全ての市民の皆様にも有効活用し、皆様が自分なりに幸せを実感できる生活や地域社会づくり、そしてまちづくりを進め、その上で白井に愛着を持っていただき、将来に向けて希望を持てる、持続的に発展する白井市を築きあげるよう、令和6年度はさらに活力あふれる取組を展開してまいります。

近年、大規模な自然災害が頻発しており、本年1月1日に発生した石川県能登半島地震では、今なお、多くの方々が避難生活を送っておられます。本市からも、1月19日から23日まで、千葉県からの要請により石川県珠洲市に職員2名を派遣したところですが、被災地での応援職員の経験を共有し、今後の本市の災害対応に生かすことはもちろん、災害・減災への対応や発災後の支援体制など、防災力をさらに強化することが必要不可欠と言えます。先ほど、諸般の報告で申し上げましたが、本年4月には、白井総合公園に続き、富士地区においても一時避難所としての防災機能を備えた富士公園を開園いたします。市としましても、市民の皆様と自助・共助・公助の役割を共有することに加え、関係機関とともに迅速に機能できる連携体制を構築し、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

持続可能なまちづくりに向け、現在取り組んでいる企業誘致に加えて、新たな産業や雇用の創出などにも、これまで以上に力を入れて取り組むため、今議会にも提案させていただきましたが、現在の産業振興課 企業誘致推進室を、市長直轄の特命部署である「未来創造戦略室」として改組し、方針決定の迅速化や重要施策の推進を図ってまいります。さらに、職員の働き方改革や人材の確保のための人事課の設置、マネジメント体制の強化と管理職に必要な経験を積ませるため、課長補佐職の新設などを行い、引き続き、限られた職員数で、多様化する行政課題に適切に対応してまいります。

私は、市民の皆さまの生命・財産を守ることに加えて、子どもや子育て世代、高齢者、そして障がい者まで将来に向けて安心で、かつ希望が持てるまちであり続けるため、令和6年度は白井市を「前に・前に進め」を掲げ、大きく飛躍する年にしたいと考えています。第5次総合計画の完遂まで2年と迫る中、一つひとつの取り組みを着実に進め、力強い財政力を備えるとともに、市民の幸福度の向上を図り、人口減少に歯止めをかけ、いまよりももっと豊かなまちづくりを進めてまいります。

(当初予算)

次に令和6年度当初予算について申し上げます。

今年予算案の特徴は、「未来につなぐ 安全・安心予算」です。令和6年度は、次期総合計画の本格的な策定を進める重要な年度です。世界的な物価高騰などの影響を受ける中、安定した行財政運営を着実に行うことが、市民生活の安全・安心につながると考えています。足元の市民生活を守りつつ、将来を見据え、未来へ着実に歩みを進めるため、また、白井の未来を担う子どもたちの生活を守るための予算を編成しました。

令和6年度当初予算については、一般会計では、過去最高規模の213億6,692万7千円で、3つの特別会計と水道事業及び下水道事業を合わせた予算総額は、357億1,469万8千円となり、前年度比1.2%の増となりました。また、市税におきましても、個人市民税において、納税義務者や一人当たりの課税額が増加していること、固定資産税及び都市計画税において、評価替えによる地価の上昇を見込んだことなどから、過去最高規模となりました。

令和6年度の予算編成にあたっては、令和5年9月に予算編成方針として、4つの基本方針を定め、編成いたしました。

それでは、この基本方針に基づき、令和6年度に実施する主な事業について、順にご説明いたします。

まずは、基本方針の1つ目「後期基本計画事業の完遂を見据えた着実な実施」のための主な事業についてご説明します。

令和6年度予算では、令和6年4月に開園する災害時の一時避難場所としての防災機能を備えた富士公園の公園台帳整備や令和9年4月の供用開始を目指して取り組んでいる工業団地アクセス道路整備事業のほか、通学路の安全確保のため市道00-001号線（通称河原子街道）の歩道整備に着手するなど、総合計画事業全体で総額約32.2億円を計上しています。

続きまして、基本方針の2つ目「市民生活の安全・安心の確保」のための主な事業については、今後、大規模な災害が白井市で発生した際に、

国、県などの機関をはじめ、地域とも緊密に連携できるよう防災対策の強化を図るため、新たな取組を加えた総合防災訓練の実施や、災害発生時における情報伝達手段の一つである防災行政無線について、通信方法をデジタル化とする更新工事を行います。また、災害医療に係る関係者及び関係機関による（仮称）白井市災害医療対策会議を開催し、災害医療体制を強化していきます。さらに、犯罪の抑止、犯罪が発生しにくい環境づくりとして、白井駅前及び西白井駅前に防犯カメラを設置します。このほか、子どもが安心して過ごせる居場所を支援するため、子ども食堂や学習支援に取り組む団体への補助制度の新設や白井第一小学校及び白井第二小学校の生徒の通学における安全性を確保するため、今まで試行中であったスクールバスを正式導入いたします。

続きまして、基本方針の3つ目「子どもの成長のための施策の推進」のための主な事業として、経済的な事情により、学びたくても学べない子どもたちの学習を通塾により支援する「学習支援事業」について、今までの実施状況を踏まえ、実施期間を8か月から10か月に拡充します。また、物価高騰の影響により、令和6年度につきましては4月から学校給食費を月額で小学校500円、中学校600円値上げいたしますが、保護者の負担軽減を図るため、保護者が負担する学校給食費の値上げ額を市が負担することや、多子世帯の負担軽減を図るため、令和5年度に引き続き、第3子以降の学校給食費無償化を行います。

さらに、これらの経済的支援の強化に加えて、「地域社会に開かれた学校」を目指し、桜台小・中学校でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入するほか、未来を見据え、土日などの休日の学校部活動を段階的に地域クラブに移行するなど、学校と地域の関わり方の見直しについても進めていきます。

最後に、基本方針4つ目の「将来を見据えた行財政運営の実現」をすすめるため、自主財源の確保に向け、税の徴収率の向上やふるさと納税制度の活用、企業誘致の取り組みについては、引き続き強化します。また、令和5年10月に策定した「白井市DX推進指針」に基づき、市民サービスの向上を図るため、窓口キャッシュレス決済サービスの導入や市公式LINE機能の拡張、申請

書自動作成サービスなどのDXを推進していきます。さらに、ゼロカーボンシティを見据え、中学校でのごみ減量化・脱炭素ワークショップの開催や市庁舎等で使用する電気の一部を市庁舎屋上等に設置した再生可能エネルギー設備で作られた電気へと切り替えるなどの取組みを進めていきます。

以上、施政方針 並びに当初予算編成についてご説明させていただきましたが、一つひとつの課題に真摯に取り組み、市政発展に向け引き続き、全力を尽くしてまいります。